

「バラ解説」をご利用いただくにあたり

この度はご採択を賜り、誠にありがとうございます。

つきましては、「バラ解説」をご利用いただく場合の留意点等、ご一読の程をお願い申し上げます。

従来「解答解説書」の問題点

- ・「解答解説書」を先に渡すと、「答え」を丸写しして…勉強にならない。
- ・かといって、1冊終えた後に渡しても…読まない。
- ・その都度「バラの解答解説」を用意しても…読まない。

★「解説」を読むことで学習効果が上がるのに…読ませたい、考えさせたい。

「問題集」の「解説書」と「解答書」を分けたねらい

○「バラ解説」でない場合の構成と使用例

構成（本書1冊／解答書1冊／解説書1冊）

・本書と解説書を同時に配布。

☆問題を解くにあたり、解説書を読みながら解きすすめていく…読む。

（「解答そのもの」は掲載していないので「丸写し」はできません）

1回ごとに配りたい場合

「バラ解説」の構成と使用例

構成（本書1冊／解答書1冊／バラ解説 問題数分／

解答PDF）

・本書の一題を解いた後、バラ解説（一回分）を配布。

必要によって、本CD-R内の「解答PDF」を掲示。

☆問題はまず自力で解く。

頭に残っている内に、解説書を…考える、読む。

熟読する必要はありませんが、上記いずれの場合も「解説を読む」ことを習慣づけることにより、国語の設問に対する「既視感」や「気づき」等、大幅な学力の向上が期待できるはずです。

1

歌物語

へいちゅうものがたり
平中物語

本書↓p. 4／解説書↓p. 4

問二

ア 手段・方法 イ 大声をあげて騒ぐ

〈4点×2〉

問三

① マ行上一段活用・連用形 ② ラ行下二段活用・已然形

〈1点×10〉

③ カ行変格活用・連用形

④ シク活用・連用形

⑤ ラ行変格活用・命令形

⑥ ナリ活用・連用形

⑦ マ行上二段活用・連用形

⑧ ク活用・已然形

⑨ タ行四段活用・連体形

⑩ サ行変格活用・未然形

問四

1 〓 ナ行変格活用・連用形 2 〓 カ行下一段活用・未然形

〈1点×2〉

問五

女の親の、男の訪問を見張っている行動。(19字)

〈10点〉

問六

少しでも(私を)愛しいと思う気持ちがあるならば、

〈6点〉

問七

逢うことがないので引き返すのだろうか。

〈6点〉

問八

ア

〈8点〉

問二

ア 優雅だ ① 頼みにする・あてにする

〈4点×2〉

問三

a 尊敬 b 尊敬 c 自発

〈1点×6〉

d 受身 e 打消 f 推量

問四

1 打消推量 2 使役 3 願望

〈1点×5〉

4 反実仮想 5 意志

問五

① 返したい

〈4点×2〉

④ どのようにしてなくてよいことがあるうか、いや、よくない。

問六

自分にあてた手紙であることを、恥ずかしくて言い出せない様子。(30字)

〈12点〉

問七

掛詞 Ⅱ ふみ／「踏み」と「文」

〈4点〉

「別解」掛詞 Ⅱ ふみかへす／「文返す」と「踏み返す」

問八

エ

〈7点〉

3

物語

堤中納言物語
つみぢゆうなごんものがたり

本書↓p.8／解説書↓p.12

問二

ア ㊦ 特に ㊩ 不安がる・心配する

〈4点×2〉

問三

㊦ ㊦ 完了 ㊩ 存続 ㊦ 完了 ㊦ 過去

〈1点×4〉

問四

1 ㊦ 過去 2 ㊦ 詠嘆 3 ㊦ 強意

〈1点×5〉

問五

4 ㊦ 過去推量 5 ㊦ 願望
中将たちをひそかに招き入れるために屋敷の様子を見て回る行動。

〈30字〉

問六

わけがわからず、驚きあきれるばかりに自然とお思ひになる。

〈8点〉

問七

ア

〈10点〉

問二

ア 〓 残念である ① 〓 ござかしい

〈4点×2〉

問三

a 〓 断定 b 〓 存続 c 〓 現在推量

〈1点×3〉

問四

1 〓 人の言うようなことを真似るそうだよ。

〈2点×5〉

2 〓 あつてはならないことだと思ひになつて、

3 〓 この海にも劣らないだろう (劣らないに違ひない)。

4 〓 今、増しているらしい

5 〓 扇を広げたように

問五

ア

〈7点〉

問六

(ござかしい) 女房が (夢を) 間違つたことによるようです。

〈6点〉

問七

(1) 〓 朱雀門へ立てり

〈4点〉

(2) 〓 九条殿が摂政・関白に上りつめるほどの栄華を極めるといふこと。

(30字) 〈12点〉

5

随筆

まくらのそうし
枕草子

本書↓p. 12／解説書↓p. 20

問二

ア 〓体裁が悪い・みっともない ① 〓驚くほど大げさで派手だ 〈4点×2〉

問三

(1) 〓 〓 (2) 〓 A 〈2点×2〉

問四

1 〓 エ 2 〓 サ 3 〓 ケ 4 〓 ウ 5 〓 イ 〈1点×5〉

問五

身分の高い人がたいそう地味で目立たない姿で御嶽に詣でること。(30字) 〈13点〉

問六

② 〓 地味で目立たない身なりで参詣せよと、御嶽は決しておっしゃらないだろう。 〈6点〉

問七

ア ③ 〓 めったになく奇妙なことで、 〈4点〉

〈10点〉

問二

ア 妊娠する ① 祈る

〈4点×2〉

問三

(a) イ (b) ア (c) オ (d) ウ (e) エ (f) ウ

〈1点×6〉

問四

(1) 4

〈1点〉

問五

(2) 1 行きたい。 2 光さえ(も)ない。

〈2点×2〉

作者の父が、作者とお礼参りに行くはずだった年まで、生きることができなかつたこと。(40字)

〈15点〉

問六

母までもお亡くなりになってしまったので、

〈8点〉

問七

ウ

〈8点〉

問二

ア 〓 頼りになる イ 〓 並一通りではない

〈4点×2〉

問三

Ⓐ 〓 B・イ Ⓑ 〓 A・ア Ⓒ 〓 B・ア

〈1点×6〉

Ⓓ 〓 C・ア Ⓔ 〓 B・ア Ⓕ 〓 A・イ

問四

1 〓 お召し替えになつて

〈2点×4〉

2 〓 お手紙を差し上げなさる。

3 〓 誰々がお仕えしているか。

4 〓 召し上がり（お飲みになり）、

問五

ウ

〈10点〉

問六

太政大臣がお亡くなりなされたことでさえ、世間は自然と心落ち着かな

く思います。

〈8点〉

問七

藤壺が死に、この上なく悲しんでいる様子。（20字）

〈10点〉

8

歌 論

古来風体抄
こらいふうていし抄

本書↓p. 18／解説書↓p. 32

問一

- ① 打消 ② 強意 ③ 存続 ④ 意志 ⑤ 打消

〈3点×5〉

問二

- ① エ

〈3点〉

問三

③ 何と申して述べようとは思っておりませんが、必ずしも華麗な表現ではなくても、朗詠する声によって良くも悪くもなるということ。(39字)

〈5点〉

問四

才

〈12点〉

〈15点〉

うたたね

本書↓p. 20／解説書↓p. 36

問二

㍿ 一晩中 ① 折

〈4点×2〉

問三

㊦

〈3点〉

問四

1 一 ア 2 二 ウ 3 三 イ

〈1点×3〉

問五

オ

〈10点〉

問六

心を落ちつけようという人はきっと見るのがよい風景である。

〈8点〉

問七

(1) 一 わけもなく思い立った。

〈6点〉

(2) 二 つらさを忘れるために、別人になったつもりで田舎で暮らすこと。

(30字) 〈12点〉

問二

㊦ 出家する ① 奥ゆかしい・心ひかれる

〈4点×2〉

問三

a ㊦ エ b ㊦ オ c ㊦ ア d ㊦ イ e ㊦ ウ

〈1点×5〉

問四

1 ㊦ カ 2 ㊦ エ 3 ㊦ キ 4 ㊦ オ

〈1点×4〉

問五

百首の歌を差し上げなされた時に、

〈8点〉

「別解」百首の歌を差し上げなされたところ、

問六

イ

〈10点〉

問七

大炊殿の古びた様子が、新しく飾るよりもかえってすばらしく思われた

ということ。(38字)

〈15点〉

問二

ア 〓大切に世話をする ① 〓立派だ

〈4点×2〉

問三

a 〓ア b 〓エ c 〓イ d 〓ウ e 〓イ

〈1点×5〉

問四

1 〓京にいる医者の方へ、

〈2点×2〉

2 〓前にある琴

問五

① 〓独りでおります身であるならば、たいへん畏れ多いお言葉であるの
になあ。

〈6点〉

③ 〓少しも言い出しなさない。

〈4点〉

問六

今は通って行く妻がいるので、右大臣の娘と結婚することはできないと
いうこと。(37字)

〈15点〉

問七

エ

〈8点〉

問二

ア 〓 めったにない ① 〓 身分の低い

〈4点×2〉

問三

a 〓 完了 b 〓 尊敬 c 〓 受身 d 〓 自発

〈1点×4〉

問四

3

〈1点〉

問五

① 〓 取るに足らない者は、聞くことができません。

〈5点×2〉

問六

オ

〈12点〉

問七

常に女性の目を気にして、おかしく思われないうに身だしなみを整え

ようとする意識。(40字)

〈15点〉

問二

ア ㊦ どうして ㊩ ㊦ すばらしいと思う

〈4点×2〉

問三

㊦ ㊦ イ ㊦ ㊦ イ ㊦ ㊦ オ ㊦ ㊦ エ ㊦ ㊦ ア ㊦ ㊦ ウ

〈1点×6〉

問四

1 ㊦ ア 2 ㊦ イ 3 ㊦ イ 4 ㊦ ア

〈1点×4〉

問五

とうとう命を落として亡くなってしまったのは、

〈8点〉

問六

宮内卿が、自分の命をかけてまで歌作りに没頭していたこと。(28字)〈12点

問七

ウ 〈12点

問二

ア 〓 きまりが悪い ① 〓 想像する・思いをめぐらす

〈4点×2〉

問三

いかに／思ほさ／むず／らむ

〈2点〉

問四

b 〓 エ c 〓 イ d 〓 ア e 〓 ウ

〈1点×4〉

問五

① 〓 もしも死ぬならば、少将にきつと二度と話をしなくなるだろうこと
(よ)。

〈6点×2〉

問六

④ 〓 どのような気持ちをなさっているだろうか。
継母ばかりでなく実の父までも自分につらくあたることをひどく嘆き悲
しんでいる様子。(40字)

〈15点〉

問七

イ

〈9点〉

問二

ア 〓 返事をする イ 〓 並一通りだ

〈4点×2〉

問三

a 〓 強意の助動詞「ぬ」の未然形と、意志の助動詞「む」の終止形

〈3点×2〉

b 〓 強意の係助詞「なむ」

問四

1 〓 ア 2 〓 ウ 3 〓 イ

〈1点×3〉

問五

エ

〈6点〉

問六

訪ねる人がいるはずのない粗末な家に、若小君が訪ねてきたこと。(30字)

〈12点〉

問七

親がいらっしゃらないようなので、どれほど心細く思われなさっているだろうか。

〈6点〉

問八

ウ

〈9点〉

問一

- a ㊦ウ b ㊦オ c ㊦エ d ㊦イ e ㊦ア

〈2点×5〉

問二

- ① ㊦やはりまったく気が晴れないで終わってしまうとしたらそれは、
 「別解」やはりまったく気が晴れないで終わってしまうようなことは、

〈7点×2〉

問三

- ③ ㊦ひたむきにまじめになつておっしゃるので、
 自分に仕える女房の中に、齋宮と親しくしている者がいること。(29字)

〈15点〉

問四

エ

〈11点〉

問二

ア 〓 無駄だ ① 〓 不思議だ

〈4点×2〉

問三

a 〓 尊敬／達磨から老僧

〈3点×4〉

b 〓 謙譲／達磨から老僧

c 〓 丁寧／老僧から達磨

d 〓 尊敬／作者から達磨（「達磨」は「和尚」でも可）

問四

① 〓 仏や經典の名さえもまったく聞いたことがない。

〈4点×2〉

② 〓 きつとわけがあるのだろう

問五

ア

〈10点〉

問六

 食事を授かりながら、囲碁を打つばかりで、修行を全くしていないと思
 っていたから。（39字）

〈12点〉

問二

ア 親しく交わる ① ちようどの頃合い

〈4点×2〉

問三

a 〓ウ b 〓ア c 〓ア d 〓イ

〈1点×4〉

問四

(1) 〓どのような機会でも一度会いたいものだ。

〈4点〉

(2) 〓妹の弥生姫君に桜の枝を持って行くことを口実にして、緑姫君のもとへ出向いた。(37字)

〈15点〉

問五

ウ

〈6点〉

問六

(1) 〓この花を知らないならば、行く春を惜しまなかっただろうに

〈5点〉

(2) 〓オ

〈8点〉

問二 ア Ⅱ つまらない ① Ⅱ すばらしい

〈4点×2〉

問三 エ

〈3点〉

問四 ゆるさ (サ行四段活用動詞「ゆるす」未然形)／れ (受身の助動詞「る」

連用形)／に (完了の助動詞「ぬ」連用形)／ける (過去の助動詞「けり」

連体形) 〈4点〉

問五 ① Ⅱ 突き殺したことであえ意外なことであるのに、

〈5点×2〉

② Ⅱ もはや殺されてしまいそうだったが、

問六 小冠は慈悲深い心で自分の命を助けてくれたのに、自分が小冠を死なせ

てしまったこと。(40字) 〈15点〉

問七 オ

〈10点〉

問二

ア 〓御愛情 イ 〓見たい（知りたい）

〈4点×2〉

問三

(1) 〓イ

〈2点〉

(2) ㉔ 〓侍れ：ラ行変格活用動詞「侍り」已然形

〈1点×3〉

㉕ 〓らむ：現在推量の助動詞「らむ」連体形

㉖ 〓めでたけれ：ク活用の形容詞「めでたし」已然形

問四

エ

〈6点〉

問五

① 〓一晚中愛を誓ったことを忘れないならば、

〈6点×2〉

② 〓本当にどれほど悲しくお思いになっただろうか。

問六

イ

〈7点〉

問七

皇后宮が亡くなった悲しみで、高貴な身分でありながら、寝ないで夜を明かした様子。（39字）

〈12点〉

問二

ア 様子 ウ 驚きあきれる

〈4点×2〉

問三

ア けしき イ おんぞ

〈1点×2〉

問四

a ア b イ c ウ d ウ h ア

〈1点×5〉

問五

e 当然(推量) f 命令 g 可能

〈1点×3〉

問六

① 重盛の寿命はきつともはや尽きるだろう。

〈4点×2〉

問七

③ 涙を我慢することができない。
いづれ重盛が死に、自分の敵が不幸になるという話を聞いたから。(30字)

〈10点〉

問八

(1) どうするのだろうか、いや、どうしようもないだろう

〈4点〉

(2) ア

〈10点〉

問二

ア 〓それならば ① 〓道理になかったことである

〈4点×2〉

問三

a 〓形容動詞ナリ活用「古様なり」連体形の活用語尾

〈3点×3〉

b 〓ラ行四段活用動詞「なる」終止形

c 〓断定の助動詞「なり」連体形

問四

ア

〈5点〉

問五

芸の魅力を失ってしまった名役者を誰も評価しないということ。(29字)

〈29点〉

問六

昔の名声だけをあてにするようなことは、

〈4点〉

問七

オ

〈5点〉

問八

ウ

〈9点〉

問二

ア Ⅱ 並々でない ① Ⅱ むやみやたらだ

〈2点×2〉

問三

エ

〈2点〉

問四

家の者が日没には戸を閉め、来客にも戸を開けずに応対すること。(30字)

〈5点〉

問五

② Ⅱ もし開けたような時は、突き殺そう。

〈3点×3〉

⑥ Ⅱ いずれにしても、二度とは来ないだろう。

⑧ Ⅱ この病は、あの盗人でないならば治す人はいないだろう。

問六

ア

〈4点〉

問七

番匠が大声を上げて盗人を追い返したはずなのに盗人の姿が見えず、不審に思っている。(40字)

〈7点〉

問八

盗人が、番匠の思わず出した大声に驚き、そのまま逃げて命拾いすることのできたこと。(40字)

〈7点〉

問九

ア

〈4点〉

問十

ウ・キ

〈4点×2〉

問二

ア ㊦ご命令 ㊩ ㊦まことに・非常に ㊧ ㊦かえって

〈2点×3〉

問三

エ

〈2点〉

問四

① ㊦山が険しいので、御馬から下りて、徒歩でお上りになった。〈3点×3〉
③ ㊦差上げたところ、

④ ㊦きつと追い申し上げていることでしょう。

問五

崇徳院が近くにいる供に気づかず呼んだことで、目が見えなくなつたと思ひ、悲しみの涙を流している様子。(49字)

〈8点〉

問六

イ

〈4点〉

問七

(1) ㊦自敬表現(自尊敬語)
(2) ㊦敵がどうして私(崇徳院)を助け申し上げないことがあるのか、いや、

〈3点〉

助け申し上げるはずだ。

〈4点〉

問八

供の、崇拜し頼りにしていた崇徳院や左大臣と離れてしまい、途方に暮れている様子。(39字)

〈8点〉

問九

エ

〈6点〉

25

歌 論

新学異見
にいまひいけん

本書↓p. 56
／解説書↓p. 104

- | | | | |
|----|-----|-----|------|
| 問一 | (ア) | ④ | ⑤点×3 |
| 問二 | ① | (イ) | ② |
| 問三 | ③ | (ウ) | ⑤ |
| 問四 | ⑤ | | |
| 問五 | ⑤ | | |
| 問六 | ② | | |

26

随筆

真葛がはらまぐす

本書↓p. 60
解説書↓p. 110

問一

(ア)

||
⑤

(イ)

||
④

(ウ)

||
②

〈5点×3〉

問二

⑤

〈5点〉

問三

②

〈7点〉

問四

①

〈7点〉

問五

④

〈8点〉

問六

③

〈8点〉